







政治について『電子耕』で取りあげることにはやぶさかではありません。私の意見は日の丸・君が代について疑問という形で現しました。それを基にいろいろな議論がありました。政治についてもこれからみんなで討論して行きたいと思えます。選挙も近いので現在の自公政府は人気取り政策ばかりに熱中しているように見えます。具体的には「地域振興券」や公共事業費などのような、ばらまき政策の批判。なぜ公明党や自由党が自民党と連立するのか、翼賛政治体制のような政治を変えるにはどうすればよいのか、などから討論を始めたらいかがでしょうか。

先ず、あなたから先鞭をつけて下さい。マガジンは読者と編集者がつくるものです。これからの選挙はインターネットの声を無視出来なくなると思えます。

民衆の声無き声・・・草の根運動が政治を動かしたらいいですね。

---

<23号 お年玉プレゼントの当選のお知らせ>

---

23号

<http://www.nazuna.com/tom/2000/23-20000106.html>

のお年玉プレゼントの当選者は、

1、稲泉さん、2、檀香梅さん、3、栢沼さんの3人でした。

各人のメールにありました住所宛に農文協の発送所に委託して宅配してもらいます。

賞品『七十歳からの人生』

<http://www.nazuna.com/100sai/70sai.html>

◆ 目次

---

<舌耕のネタ> 食料主権をきめるのは消費者主権

<健康日記> 高血圧と健康体験

<アメリカ農業・情報> 遺伝子組み換えトウモロコシ作付け制限

<農業・図書情報> 遺伝子組換え植物の光と影 (山田康之・佐野浩)

---

<舌耕のネタ> 食料主権をきめるのは消費者主権

---

山崎農業研究所では単行本『食料主権・・・暮らしの安全と安心を求めて』の2月末発行(農文協発売)をめざして、編集仕上げに入っている。

そもそも「食料主権」とはなにか、耳なれないない言葉であるが、巻頭の記

事を書いた矢口芳生（東京農工大学大学院助教授）によれば、NGOの表現によれば「あらゆる諸国がいかなる報復措置をうけることなく、自らが適切と考える食料自給ならびに栄養品質の水準を達成するための主権」のことであり、「自らの食料安全保障政策を決定する権限」のことである。

また、農業生産者の表現によれば、「食料主権は、生産から販売、消費にいたる戦略と政策を決定するための国家と地域社会の自由であり、力量である」つまり、暮らしの安全と安心を守るための食料を確保する権利とすることができる。

なぜこのような提言をするか、それはわが国の食料自給率がますます落ち込んで、国際的穀物メジャーに支配されているという危機感があるからだ。

この本の寄稿者40人のほとんどが、その危機を訴え、農業政策の具体的施策への転換を提言している。

要約すれば、「食料主権・食料自給なくして一国の独立もなく、世界の平和も維持できない。また国土・環境の保全は食料の自給政策によって達成できる。そして消費者も毎日の食事の選択と知恵が食料主権を守る途だ」と説いている。

その大きな役割として「消費者主権」がある。食品の安全性を求めた消費者ニーズがいま世界を動かしている。具体的例がホルモン牛肉、ダイオキシン汚染食品、遺伝子組み換え（GM）食品の拒否である。

ヨーロッパではとくにGM食品の禁止運動が盛んだ。日本でもGM食品への対応は速い、大豆製品の表示。非GM原料への転換は、大豆からトウモロコシなどヘビール会社や食品業界、流通業界まで消費者ニーズに動かされている。

こうした世界的動きにアメリカもGM作物を食品メーカーが使用を控え、カーギルなどの穀物メジャーも分別集荷を強化し、生産者もGM作物の作付けを控えるまでになっている。

いままで弱い立場の消費者が食料主権を発揮する時代になろうとしている。

なお、『食料主権』は予定価格1500円、農文協から発売されます。

---

## <健康日記> 高血圧と健康体験

---

私事で恐縮ですが、もうすぐ75歳になる老人の体験です。誰でもいつかは

老人になります。人間はいかに老いて行くのか、歳をとってみなくてはわからないことがあります。私の失敗を繰り返さないために紹介します。

高血圧症は若い人にもありますが、私の場合60歳くらいまで普通でした。兄弟がみな高血圧でその結果を知っているので、私は無事かと思っていたのですが、やはり65歳くらいから高血圧と診断されました。最高血圧160、最低血圧89より高くなって降圧剤を服用する生活を続けていました。

それでも70歳くらいまで危機的状況とは思いませんでした。ところが71歳の1月に右目の眼底出血でショックをうけました。右目に黒い雲がかかる陽になって、近所の眼科にみてもらうとワープロのやりすぎでないの？、という診断でした。実はこれが手遅れでした1ヵ月もして専門病院にいったら「網膜中心静脈閉塞症」とわかり、レーザー光線で出血を止めてもらいましたが、時すでに遅く網膜の映像を結ぶところに血が溜まって見えなくなっていたのです。

原因は動脈硬化で目の動脈が太くなり静脈を圧迫して血液の循環を阻止した結果です。そのみなもとは高血圧です。

自宅でも計測すると朝6時ころは180から200になることもありました。それで薬を強くしたり、鍼灸で血圧をさげたりして一時は平穏でした。でも歳を重ねるに従ってだんだん血圧も高くなり動脈硬化も進んだのです。

その結果、第2次症が74歳の10月に脳出血に至ったのです。ここで脳神経外科の専門病院にお世話になりました。

現在発病して3ヵ月、退院して2ヵ月、この間は再発防止のため降圧剤を強くして上が110、下が60位でした。これではあまり低すぎる、階段登るにも息がきれる、食欲がない、便秘や下痢をおこしやすい。なにかいらいらするというので今週から降圧剤を減らしてもらいました。

その効果はてきめんで、食欲がでた、みかんも食べたくなくて、お腹の調子も良くなりました。こんなに血圧が影響するのです。ここが気を付けなければならぬところです。血圧が高くなると確かに元気になります。ワープロも面白くなりました。これが危ないのです。調子に乗りすぎないように、「ほどほどに」の原則をまもりましょう。

私の失敗の教訓は、ホームドクターにいつも見て貰うのは勿論ですが、ちょっと変わったことがあれば、専門病院に見てもらうことです。眼科では手遅れでしたが、脳外科では早期処置で助かりました。

---

<アメリカ農業・情報> 遺伝子組み換えトウモロコシ作付け制限

---

ワシントン16日発の外電によると、米環境保護局（EPA）は、遺伝子組み換えで殺虫剤をつくる能力を持たせたトウモロコシの栽培方法を制限すると発表した。このGM作物は昨年のトウモロコシ栽培の3分の1を占めていた。

遺伝子組み換え作物に対してヨーロッパや日本の消費者の反発が強まっているので、アメリカの農家も普通の種類に戻る動きがでている。

---

<農業・図書情報> 『遺伝子組換え植物の光と影』（山田康之・佐野浩 編著）

---

はじめに・・・京都の知人がぼやいていた。「食糧のため、環境のため頑張っているのに、悪者扱いにされてはかないまへんわ」

植物バイオテクノロジーにたずさわる多くの研究者の、これは実感である。こういう書きだしで始まるこの本はまじめな専門家集団の公正な科学的立場から遺伝子組み換え植物の解析をしたものである。

そして、本書の主題は安全性評価で、安全性とは危険性の許容度であるとし、農薬と比べながら、実例で解説し、また生態系への影響をみついている。そして6章では社会科学の立場からも考察している。また7・8章では21世紀に必ず必要になる環境浄化や物質生産のために、遺伝子組み換え技術は強力な方法になるだろうと述べている。

いずれにしても、今後持続可能な社会を考えると、生産者も消費者もさけて通れない問題であるだけに読んで欲しい図書である。

主要目次掲載

[http://www.bcasj.or.jp/jssp/f\\_agr\\_botany/identshi\\_kumikae\\_pl.html](http://www.bcasj.or.jp/jssp/f_agr_botany/identshi_kumikae_pl.html)

学会出版センター

<http://www.bcasj.or.jp/jssp/>

1999、9、20刊 ISBN4-7622-2922-9

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=99040031>

[http://tamon.mdn.ne.jp/Souteisha\\_no\\_hondana/Shinkan\\_info/sub\\_Shinkan\\_info\\_00001](http://tamon.mdn.ne.jp/Souteisha_no_hondana/Shinkan_info/sub_Shinkan_info_00001)

5.htm

『遺伝子組換え植物の光と影』関連リンク

(7章 第二世代の遺伝子組換え植物 1 環境修復) 部分

9. 第二世代の遺伝子組換え植物

(8章 科学技術の功罪 2 分子育種は何をすべきか) 部分

10. 科学技術の功罪 (問題点)、結びと展望

執筆分担 広島大学理学部 数理分子生命理学専攻 森川 弘道 教授

<http://phenoma.math.sci.hiroshima-u.ac.jp/mpb/Pidenshi.html>

---

<「電子耕」原稿・投稿募集>

---

このメルマガは読者の意見交換を一つの目的にしています。

「キーワード」の趣旨にそった投稿を募集しています。

- 1、庶民の歴史としての「自分史・父母の歴史」「エッセイ」
- 2、農業・文化について、健康・食についての情報など。
- 3、字数は一人1回500字から1000字くらい。メールで送って下さい。  
掲載するときのペンネームも添えて下さい。
- 4、投稿<読者の声>は原則としてこのメルマガに掲載します。掲載は困る方は「掲載しないで」と明記して下さい。また、原稿料は差上げられませんので、ご了承ください。

編集責任者 原田 勉

---

●メール送付の際のご注意案内↓

<http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail>

---

— P R —

■■■■ 原作／水上勉 脚本／八木 柊一郎 演出／鈴木 完一郎

■■■□ ◇◇◇ 故郷 THE GOOD EARTH ◇◇◇

■■□□ 公演／2000年2月4日(金) 開場／18:00 開演／18:30

■□□□ 神奈川県立青少年センター 料金／全席指定 3800円(税込)

□□□□ <http://bunkaza.com/kokyo2000y.html>

---

— P R —

■劇団文化座2000年度 新人募集!

<http://bunkaza.com/recruit2000.html>

---

■ 山崎農研発行の書籍のご案内

[http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama\\_books.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_books.htm)

---

● 協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」

<http://www.ruralnet.or.jp/>

「山崎農業研究所」

[http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama\\_frame.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/yamazaki/yama_frame.htm)

「劇団文化座」

<http://bunkaza.com/>

---

ここまで読んでいただきありがとうございました。

■ ご意見・ご感想は、Eメール

<mailto:tom@nazuna.com>

または、電耕掲示板

<http://www62.tcup.com/6201/tom.html?>

までお願いします。

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。

『まぐまぐ(ID=14872)』

<http://www.mag2.com/>

『Macky !』

<http://macky.nifty.ne.jp/>

SPECIAL THANKS to INTERNET JAH

<http://www.jah.ne.jp/>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

【隔】週刊「74歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第24号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2000.1.20 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

\*\*\*\*\*発行部数 1289+49 部\*\*\*\*\*ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*

.